

「上智経済論集」執筆要項

編集委員会
2025年11月

1. 論文掲載に必要な、以下の情報を原稿に記載する。
 - a. 論文タイトル（和文・英文）
 - b. 著者氏名（和文・英文）
 - c. 著者所属機関名・部局名・職位名（和文・英文）
 - d. 代表著者連絡先（電子メール等）
 - e. 論文要旨（和文 200 文字以内・英文 200words 以内）
 - f. キーワード（5 個以内：和文・英文）
2. 論文の見出し分割は、まずローマ数字「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」……、さらに区分する場合はアラビア数字「1.」「2.」「3.」……とする。アラビア数字の場合は「.」を付ける。
3. 句読点は、「、」「。」で統一する。
4. 「参考文献」(References)は論文の末尾にまとめる。参考文献は、洋書（著者のABC順に）と和書（著者のアイウ順に）に分けて並べる。同一著者で同一年に2つ以上の文献がある場合は、年号の後に a、b、c を付けて区別する。「注」は脚注形式を採用する（ただし提出原稿は論文の末尾で可）。
5. 本文および脚注での文献・頁の表示例
文献表示の基本は、著者・年号・頁の順番とする。ただし、（ ）の付け方に注意。

例 1. ブランシャール¹⁾は、「このような極端な産出量の落込みは……ないであろう」(Blanchard, 1997, 24-25)。この議論は、……
《あわせて本文中での脚注の表記法も記してある》

例 2. ここでのスティグリッツの主張について、河田 (2000, 104) は「…合計価値が減少したために、労働需要が減少した」と解釈する。

例 3. ハイエク (Hayek, 1987b, 105 ; 187 : 訳 108 ; 190) によれば、メンガーは……。
《2 ヶ所以上ある時は、「;」を使う》

例 4. この点を論じたものに、山田 (1976) や中山 (1998)、Knight (1979)、Aitchison and Brown (1957) などがある。

《頁を示さないときには、年号だけを () でくくる。英文論文の場合も同じ》

6. 脚注の形式

1) これは……、「ヒックスにとって……」(Blaug, 1979, 34)。

7. 論文参考文献の表記

a. 欧文表記名は ABC 順で先に、和文表記名はアイウ順で後に並べる。

b. 論文の場合は、必ず「印刷頁」を付記すること。

c. 欧文の著書名、雑誌名はイタリックであるが、編集の都合上必ずアンダーラインを付けること。

参考文献 (References)

例 1. 編著に含まれる論文の表記

Cosmides, L. and Tooby, J. “Cognitive Adaptations for Social Exchanges.” in Barkow, J., Cosmides, L., and Tooby, J. eds., *The Adapted Mind : Evolutionary Psychology and the Generation of Culture*, Oxford University Press, 1992.

Arrow, K. J. “An Extension of the Basic Theorems of Classical Welfare Economics.” in Neyman, J. ed., *Proceedings of the Second Berkeley Symposium on Mathematical Statistics and Probability*, University of California Press, 1951.

例 2. 雑誌論文の表記

Pullen, J. “Malthus on the Doctrine of Proportions and the Concept of the Optimum.” *Australian Economic Papers*, 21(39) : 134–154, 1979.

《巻(号) : 印刷された頁, 年号》

Panzer, J. C. and R. D. Willig “Free Entry and the Sustainability of Natural Monopoly.” *Bell Journal of Economics*, 8(1), 80–90, 1977a.

例 3. 翻訳がある場合の表記

Winch, D., *Malthus*, Oxford University Press, 1987 (久保芳和・橋本比登志訳『マルサス』日本経済評論社、1992)。

例 4. 著書の場合

Aitchison, J. and Brown, J. *The Lognormal Distribution*, Cambridge University Press, 1957.

例5. 邦語文献の場合の表記例

羽鳥卓也「『国富論』における生産的労働と蓄積ファンド」(経済学史学会編『国富論の成立』所収、岩波書店、1976)。

羽鳥卓也「マルサスにおける農業主義と商工業主義」『マルサス学会年報』(1)：1-20、1991。

《巻(号)：印刷された頁、刊行年》

横山照樹『初期マルサス経済学の研究』有斐閣、1998。

8. 外国人名の表記(カタカナ)は、発音が不確定なときには、初出時のみ、例えば「バーコウ (Barkow, J.)」というように、原綴りを()に入れて補うことにして、原則すべての欧文人名は、本文中ではカタカナ書きにする。
9. 欧文文献などにおけるイタリック表示は、編集作業を容易にするため、原稿提出時にはすべてアンダーラインを付けること。また、フランス語のアクセントやドイツ語やウムラウトなど、TXT形式では保存できない特殊な文字については、ワープロ原稿に「黄色のマーカー」で指示する。
10. 論文は、ワープロ印刷されたもの2部に加え、Microsoft Word、TeX、または一太郎で作成したファイルを収録したメディアを添えて提出(メールの添付ファイルも可)のこと。ただし、手書き原稿の場合は、予めその旨を編集委員会に申し出て許可を得ることとする。
11. 論文原稿には、整理の都合上、執筆者氏名、論文名、連絡住所、電話番号、E-mail アドレスを記載した表紙を付けること。
12. 校正は再校までとする。

付記

- 誌面全体の統一をはかるために、編集段階で表記の変更を行うことがありますので、ご了承ください。
- 「上智経済論集」掲載の原稿は、本学図書館のデジタル化に伴い、経済学部ホームページ上その他で公開いたしますので、著作権者にはこの点をご理解いただき、ご許可をお願いいたします。